

第72回日本衛生動物学会東日本支部大会報告

編集委員会

日本衛生動物学会は、4月の全国大会のほかに北日本、東日本、西日本、南日本の支部大会が秋にそれぞれ開催されています。昨年はコロナパンデミックにより中止となり2年ぶりの開催となりました。本年は佐々木年則先生が大会長となり、昨年2月に逝去された栗原毅先生の追悼講演、オーストラリアからのZOOMによる特別講演、2題のシンポジウム、17題の一般講演がありました。東京都ペストコントロール協会会員会社からは、木村悟朗氏(イカリ消毒)が発表されました。



感染研玄関



大会に先立ち黙祷が行われた
(左より) 故栗原先生 故北岡先生 故安富先生

開催日 2021年11月6日(土)

会場 国立感染症研究所昆虫医科学部第2室
(ZOOMによるリモート開催)

大会長 佐々木年則先生(国立感染症研究所昆虫医科学部)

追悼講演

1. 追悼 蚊学の師 故栗原毅先生.
倉橋 弘(国立感染症研究所昆虫医科学部、国際双翅類研究所)
2. 栗原 毅先生の思い出.
江下優樹(北海道大学 人獣共通感染症国際共同研究所)

特別講演

「The Interaction of Mosquito, Dengue Virus and Wolbachia for Control of Dengue Mosquito」

Prof. Sassan Asgari (The University of Queensland.Australia)

シンポジウム 1 ボルバキアの基礎と応用

座長 葛西真治(国立感染症研究所・昆虫医科学部)

佐々木年則(国立感染症研究所・昆虫医科学部)

S1 「昆虫の生殖を操る共生細菌ボルバキア：その多様な能力と生態について」

陰山大輔(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

生物機能利用研究部門 昆虫制御技術グループ)

S2 「ヤブカにおける共生細菌ボルバキアによる RNA ウイルスの制御」

大手 学(東京慈恵会医科大学・熱帯医学講座, 東京慈恵会医科大学・

衛生動物学研究センター)

シンポジウム 2 マラリア原虫とベクターバイオロジー、ウイルスに対する昆虫の耐性機構

座長 山本大介(自治医科大学・医動物学教室)

佐々木年則(国立感染症研究所昆虫医科学部)

S3 「雌雄ハマダラカにおけるマラリア原虫コンピテンシーの比較」

筏井宏実(北里大学獣医学部獣医寄生虫学研究室)

S4 「カイコ濃核病ウイルスに対する宿主カイコの抵抗性機構」

伊藤克彦(東京農工大学農学部蚕学研究室)

PCO関連の一般講演

(蚊)

・新潟県佐渡島における蚊相と未記録種

前川芳秀(感染研)、三條場千寿(東京大・農学・応用免疫)、皆川恵子(日環センター)、
沢辺京子・葛西真治(感染研)

・東京 2020 大会会場周辺における感染症媒介蚊サーベイランス結果

伊賀 千紘、高橋 久美子、井口 智義、横尾 愛虹、秦 和寿、佐藤 祥代、岩城 舞子、千葉 隆司、
中嶋 順一、守安 貴子(東京都健康安全研究センター)

広域サーベイランス16カ所、重点サーベイランス9カ所に加え、オリンピック会場ベイゾーン周辺7カ所で6回行った。ベイゾーンではヒトスジシマカ(82%)、アカイエカ群(15%)、コガタアカイエカ(3%)、イナトミシオカ(2匹)、カラツイエカ(1匹)の5種類が捕集された。

第72回日本衛生動物学会東日本支部大会報告

- ・2019年夏季に長崎県で捕集された *Culex vishnui* subgroupにおける日本脳炎ウイルス保有実態調査。

松村凌^{1,2)}、小林大介²⁾、Astri Nur Faizah²⁾、甲斐泉^{1,2)}、比嘉由紀子²⁾、佐々木年則²⁾、二見恭子³⁾、森本康愛³⁾、砂原俊彦³⁾、吉川亮⁴⁾、松本文昭⁵⁾、浦川美穂⁵⁾、藤田龍介⁶⁾、糸山享¹⁾、皆川昇³⁾、沢辺京子²⁾、伊澤晴彦²⁾

(¹⁾明治大院・農、²⁾感染研・昆虫医科学、³⁾長崎大・熱研、⁴⁾長崎県川棚食衛検、⁵⁾長崎県
環境研セ、⁶⁾九州大院・農)

- ・チカイエカの波長選好性

木村 悟朗(イカリ消毒)、石川 一博(ベンハー芙蓉)、谷川 力(イカリ消毒)

雌は光源なしに有意に飛来、雄は明確な特徴がなかった。

- ・2013年と2015年に成田国際空港で採集されたネッタイシマカの殺虫剤抵抗性と抵抗性機構

草苺咲季^{1,2)}、駒形修¹⁾、糸川健太郎¹⁾、糸山享²⁾、葛西真治¹⁾ (¹⁾国立感染研、²⁾明治大)

成田空港に侵入したネッタイシマカは、2013年は65倍、2015年は29倍といずれもペルメトリンに高い抵抗性を示した。

(ゴキブリ)

- ・都心の歩道におけるワモンゴキブリの季節消長

中野敬一(東京都港区)

(ネズミ)

- ・和漢三才図会』における鼠と水鼠の違い。

矢部辰男(ラットコントロールコンサルティング)

鼠(クマネズミ)と水鼠(ドブネズミ)が紹介されている。筆に使われているネズミの毛はドブネズミである。

(ダニ)

- ・新規ワクモ増殖箱の構築と増殖動態評価

井上 貴裕^{1,2)}、小池 優貴¹⁾、川田 逸人¹⁾、小田 憲司²⁾、辻 尚利¹⁾、八田 岳士¹⁾

(¹⁾北里大学大学院医療系研究科、²⁾一般財団法人生物科学安全研究所)

(チャドクガ)

- ・都内におけるチャドクガの調査結果

井口智義、伊賀千紘、高橋久美子、秦和寿、中嶋順一、守安貴子(東京都健康安全研究センター)

新宿と東村山にトラップを5年間配置、毎年49～1118個体の捕獲があった。